

# Begleiten 103号



2018. 7. 3

焦らず、倦まず、へこたれず

ベグライテン世話人 高野 真光

今年、関東地方は記録的な早さの梅雨明けでした。地球全体の気候が大きく変動していることの影響でしょうか、この夏の水不足が心配になります。

今回初めて巻頭言を担当しますベグライテン世話人の高野真光と申します。NHKで社会部記者などとして主に報道現場で働き、8年前に退職しました。去年12月からは月刊誌「マスコミ市民」の編集委員としてジャーナリズム活動に携わっています。代表世話人の関根さんのお書きになる巻頭言とはいささか風合いが異なる内容になるかと思いますが、最後までお読みいただければ幸いです。

先月、朝鮮半島をめぐる情勢が大きく動く歴史的な出来事がありました。南北、米朝首脳会談です。トランプ大統領、金正恩委員長とも全く常識の通用しない政治家で、今後の展開は予断を許しません、冷戦構造の完全な終結、朝鮮半島非核化へ向けての重要な一步として歓迎すべき出来事であることは間違いありません。その大きな動きの中で、安倍首相は一人蚊帳の外に置かれて、全く出番はありませんでした。おまけに北朝鮮からは「当事国でない日本は非核化問題に口を挟むな」と、名指しで“部外者認定”されてしまいました。なんとも情けない話です。それにも拘らず、NHKなど日本の大手メディアの一部は「安倍首相がトランプ大統領との仲介役を果たした」などと誤報に近い異常な持ち上げ方をしていました。こんな報道が内閣支持率の上昇につながってしまいますから、メディアの罪は大きいと言わねばなりません。

国内に目を転じれば、安倍政権の元での近代民主国家の崩壊現象がいよいよ顕著になってきました。モリカケ問題で次々に決定的証拠が現れているにも拘らず、「記憶がない」、「記録がない」、「あっても出せない」のオンパレードで、真相解明に協力する意思など微塵もないことが明らかです。安倍首相と加計幸太郎理事長の面会については、学園の事務局長が「私が嘘をつきました」と、到底信じられない釈明会見を行ったかと思えば、大阪北部地震直後、サッカーワールドカップ日本初戦の当日という、計ったようなタイミングで加計幸太郎理事長が突如の緊急会見。それも地元メディアのみしか入れず、時間もわずか25分という短時間でした。誠実さの欠片もないアリバイ作りの会見でした。それについて聞かれた、安倍首相は「コメントする立場にない」という耳を疑う無責任発言。この政権には、自らを律する最低限の規律も存在しないようです。悪政の極めつけは“働き方改革”に名を借りた“残業代ゼロ法案”を、強引に成立させてしまったことでしょう。国民の大半が必要性を疑問視し、過労死が増えるのではないかという懸念など多くの疑問点が解明されていないにも拘らずやったのですから、もはや民意など眼中にないことは明らかです。議会制民主主義というのは、合意を形成するための制度であって、多数議席を占めれば多数決で何をやってもいいというものではないのですが、現政権の中核は、

自らに都合のいい誤った考え方のもとに政治を行っています。これは事実上の独裁と言ってもおかしくありません。国民にとってこのうえなく危険なことなのですが、これもメディアが指摘することはありません。

こうして見てくると、この政権は、国民に対する嫌がらせ、即ちハラスメントの大好きな政治家たちの集まりであるように思われます。政府によるハラスメント即ちガバンメント・ハラスメント、略して「ガバハラ」とでも呼びましょう。私は、安倍内閣を「ガバハラ内閣」だと思っています。安倍政権の本質を端的に表す言葉であり、これをお読みになっている皆さんにも広めていただきたい言葉です。

このように、政治の惨状は目を覆うばかりですが、6月23日の「沖縄慰霊の日」に、一筋の眩い光が私たちを照らしました。沖縄全戦没者追悼式で、浦添市の中学3年生、相良倫子さんが、自作の詩「生きる」の朗読をしたときです。彼女の口から発せられた生きた言葉たちの連なりは、言葉が持つ本来の力を思い出させてくれる躍動感に満ちたものでした。安倍政権が言葉を無力化させるゲタラメな政治を行なっていることに対して、中学3年生の少女が真っ向から異議申し立てを行っているようにさえ私には感じられました。沖縄県民のみならず多くの国民が感動した“名朗読”として、沖縄の歴史に留められるだろうと思います。このような若い力の存在に、この国の将来への希望を見た思いがします。その前に、大人たちがもっと頑張らなければならないことは言うまでもありません。

今年一月の会報でも詳しく紹介されていますが、ベグライテンでは、被爆者国際署名と「安倍改憲 NO! 憲法を生かす全国統一署名」(3, 000万署名)への取り組みに力を入れています。戦争のない世界、一人ひとりの人権が尊重され、立憲主義に基づく民主的な政治が行われる社会を目指す取り組みであり、ベグライテンのテーマである「ケアと公共」にも関わる重要な署名です。メールやSNSを使うなど、一人一人が協力して盛り上げていきましょう。こうした運動の広がりや、安倍首相から民主主義を取り戻す大きな力にもなります。

安倍政権の傍若無人ともいえる悪政に抵抗する取り組みに携わっていると、ともすれば倦み、疲れ、自暴自棄にさえさせられることもあります。最近も、低迷していた内閣支持率が回復するというメディアの世論調査の結果が報道されていますが、そんなニュースを見聞きすると、なおさらそんな気持ちが頭をもたげてきます。しかし、ここで諦めたら、政権側の思うツボだということを思い出しましょう。独裁的な強権体制は案外脆いものです。自民党の中にも、本音では「何とかしないと」と思っている議員は少なくないはず。さまざまなスキャンダルがボディブローのように効いて、崩壊への臨界点はすぐそこまで来ているかもしれません。そのキッカケを作るためにも、私たちはおかしいことをおかしいと粘り強く言い続けなければなりません。決して悲観的になる必要はありません。焦らず、倦まず、へこたれず。こんな気持ちで、したたかに取り組んでいくことが必要です。

最後に、こんな時代だから知っていただきたい一人のジャーナリストの辞世の句をご紹介します。巻頭言を締めくくりたいと思います。それは、戦前から戦中にかけて信濃毎日新聞の主筆として軍部の横暴に警鐘を鳴らし続けた反骨のジャーナリスト、桐生悠々のものです。

蟋蟀は鳴き続けたり嵐の夜

◇◇ 7月公共例会 青井未帆先生をお迎えして◇◇

平和主義は維持されるのか？ ～護憲的改憲論などにも触れながら～

【講師】 青井 未帆 さん (学習院大学大学院 法務研究科教授)

【日時】 2018年7月7日(土)14:00～16:30 【場所】 上智大学 6号館 3F 304教室

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

(JR 中央線/東京メトロ丸の内線・南北線 四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から 徒歩5分)

[https://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access\\_yotsuya.html](https://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya.html)

公文書改ざん問題や国会での虚偽答弁によって、わたし達の多くは日本の政治がここまでうまく働いていないのかと驚かされました。無力感に苛まれた方も多いのではないのでしょうか。そういうなかで、「1ミリも変わりません」と説明され、憲法9条改憲が論じられています。改憲が先行き不透明であるとしても、すでに日本社会はだいぶ変わってきています。この変化の時代に、平和主義について考えてみたいと思います。

【講師略歴】 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得満期退学。信州大学准教授、成城大学准教授などを経て2011年より現職。

【主な著書】 『憲法と政治』 (岩波新書)、 『憲法を守るのは誰か』 (幻冬者ルネッサンス新書)、 『国家安全保障基本法批判』 (岩波ブックレット) など

【参加費】 千円( 学生/障害・生保証のある方は、500円) ☆どなたでも参加できます。

事前申し込みは、不要です。☆終了後懇親会を予定しています。(各自が飲食した分をお支払い頂きます。)

【主催】 ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】 ケアと公共を学ぶ会

【問合せ】 090-9146-6667(関根) ・ ANA71805@nifty.com(入江)

◇◇ 7月例会のご案内◇◇

#MeToo から #WeToo へ もうわたしたちはガマンしない

ハリウッドでもカンヌでも #MeToo の動きは活発なのに、日本ではなぜ盛り上がらないの？と嘆く人たちがいる。しかし時代は確実に大きく動いています。

セクハラ申告数が増えたのは女性の受忍限度が下がったから。そう発言したら、あるメディアに「女のガマンが足りなくなった」と書かれました。一昔前には年上の女が「私たちは我慢してきたのだから、あなたも我慢しなさい」と論じたものですが、今の年長の女たちは、「私たちがガマンしてきたからあなたたちをこんな目に合わせた、ごめんなさい」というようになりました。揺り戻しはあっても、この変化は決して後戻りしないでしょう。

【講師】 上野 千鶴子さん (東京大学名誉教授、認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク理事長)

【日時】 7月26日(木)18:30～20:30

【場所】上智大学 中央図書館 8F 821 会議室 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1  
(JR 中央線/東京メトロ丸の内線・南北線 四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から 徒歩 6 分)  
[https://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access\\_yotsuya.html](https://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya.html)

【講師略歴】京都大学大学院社会学博士課程修了。1995 年から 2011 年 3 月まで、東京大学大学院人文社会系研究科教授。2011 年度から 2016 年度まで、立命館大学特別招聘教授。

【著書】『おひとりさまの最期』（朝日新聞出版）、『上野千鶴子のサバイバル語録』（文藝春秋社）、『時局発言！』（WAVE 出版）、『また 身の下相談にお答えします』（朝日新聞出版）、『世代の痛み 団塊ジュニアから団塊への質問状』（中公新書ラクレ）、『おひとりさま VS ひとりの哲学』（朝日新書）、最新刊に『戦争と性暴力の比較史へ向けて』（編著・岩波書店）他多数。

【参加費】千円(学生/障害・生保証のある方は、500円) ☆終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています。(各自が飲食した分をお支払いいただきます。) ☆会場が図書館なので、事前申し込みが必要です。

【申込方法】氏名、〒、住所、携帯番号、メールアドレスを記入し、次の方法でお申込みください。

- 申込みフォーム <https://goo.gl/forms/0zbudBTi5UhHo8ey1>
- Fax による申込み 050-3737-2636 後藤哲男 宛て

【主催】ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>  
ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】ケアと公共を学ぶ会

【問合せ】090-9146-6667(関根) ・ ANA71805@nifty.com(入江)

## ◇◇ベグライテン セミナーのご案内◇◇

ケアの哲学入門講座 2018 第 3 回

ケアの人間学 ～いのちを紡ぐ・ひとをつなぐ～

終末期の患者に寄り添う～滞空～

ケアの営みは、限りあるいのちを生きる私たち人間が、その「弱さ」ゆえに与えられた豊かな可能性です。しかし私たち一人ひとりが、ケアを見つめ、引き受けていかなければ、その豊かさは容易に損なわれ、見失われてしまうでしょう。

本年度の講座では、昨年度の「ケアの哲学入門」に引き続き「ケアとは何か」という根本的な問いを大切にしながら、人生の様々な場面に即して、いったいどのような「ケアの姿勢」が私たちの生（いのち＝暮らし）をつなぎ、支えていくのかを、様々な角度から一緒に考えてまいります。

本講座第 3 回目は、東京衛生病院牧師部長・チャプレンの永野英子さんをお招きしてお話を伺います。永野さんは、様々な悩みを抱えながら死に向き合っている患者さんに寄り添う時、「滞空」ということを心がけておられるということです。友人や知人の悩みに耳を傾けようという時など、私たちにとっても必要な心得なのではないでしょうか。

【講師】永野 英子さん さん（東京衛生病院 牧師部長・チャプレン）

【日時】日時：8 月 5 日(日) 14:00～16:30 (13:30 開場)

【場所】文京シビックホール会議室 1+2(文京シビック 3F) 東京都文京区春日 1 - 16 - 21 文京区役所内

【アクセス】東京メトロ後楽園駅・丸ノ内線 (4a・5 番出口) 南北線 (5 番出口) 徒歩 1 分

都営地下鉄春日駅三田線・大江戸線 (文京シビックセンター連絡口) 徒歩 1 分

JR 総武線水道橋駅 (東口) 徒歩 9 分

【参加費】 1,000 円 (学生/障害・生保のある人 500 円)

●終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています。(各自が飲食した分をお支払いいただきます。)

●会場との関係で、事前申込が必要です

【申込み方法】 氏名(ふりがな)、〒住所、携帯電話、メールアドレスを書いて、次の方法でお申込みください。

・申込フォーム：<https://goo.gl/forms/bH9fLBOVLUOhWgP32>

・ファクス： 050-3737-2636 後藤哲男宛て

【主催】 ベグライテン <https://www.facebook.com/begleiten2> <http://begleiten.org/>

ミシュカの森 <https://www.facebook.com/mforest>

【問い合わせ】 関根 090-9146-6667 入江 [ANA71805@nifty.com](mailto:ANA71805@nifty.com)

### ◇ベグライテン 憲法カフェのご案内◇

いまから5年前、「ナチスの手口に学べ」とは、憲法改訂へ向けて麻生副総理が発言した重大な内容です。その後の推移は、立憲主義を無視し、民主主義の土壌すら崩して、自公政権の多数のおごりにまかせて、彼らの目論見通りに違憲立法を、民意を蹴散らし次々に強行成立させてきました。

では「ナチスの手口」とは何でしょうか。

ドイツ憲法(ドイツ連邦共和国基本法)はしばしば改定されている、とは改憲論者がよく使いますが、ドイツ憲法においても永久条項(1条から20条)として日本の9条のような平和条項や基本的人権条項のような基本条項は変えてはならないとしているし、現に変えられてはいません。

第一次大戦後の民主的なワイマール憲法のもとで、なぜナチス(国家社会主義ドイツ労働者党)のような全体主義政党が、民主的な選挙制度を通して権力の座に就いたのか。そして「全権委任法」のような緊急事態法が通るようになっていったのか。

安倍政権に反対する立憲民主勢力も、ナチスの手口を学び、他山の石としなければなりません。安倍暴走政権による9条改憲が成就する前に。

.....

#### ベグライテン 第2期 第17回「憲法カフェ」

【テーマ】 ナチスの手口と緊急事態法

【日時】 2018年7月19日(木) (木) 18:30—21:00 【場所】 東京法律事務所 1階会議室

【アクセス】 JR四谷駅・四谷口前(しんみち通り入口横のファミリーマートの隣)

Tel: 03-3355-0611

<http://www.tokyolaw.gr.jp/about/location.html>

【提題者】 岸 松江 弁護士(東京法律事務所)

森 正樹 さん(ベグライテン世話人)

【司会】 関根和彦さん(ベグライテン世話人)

【参加費】 1人500円+印刷代(100円程度) (参加費は提題者への謝礼となります)

飲み物は各自持参してください。

【連絡/問合せ先】 大塩：[veu03273@nifty.ne.jp](mailto:veu03273@nifty.ne.jp) 関根：090-9146-6667

## ◇聖路加国際病院 緩和ケア病棟を訪問しませんか？◇

スピリチュアルケアを含め、最も整った終末医療を行っている病院の一つであると言われている聖路加国際病院を訪問見学します。同病院のチャプレン ケビン・シーバー先生及び上田憲明先生のご厚意により、訪問が実現しました。両先生のほか、医療関係者からの説明、案内があります。

参加したい方は、下記によりお申し込みください。先着順です。

訪問日時 第1回 9月1日(土) 14:00~16:30 (上田 憲明先生)

第2回 9月8日(土) 14:00~16:30 (ケビン・シーバー先生)

集合場所 聖路加国際病院 2F 旧館主聖堂前のロビー 13:50

(病院の2Fにあるチャペル(トイスラーホール)とお間違えにならないようにしてください。)

☆ 聖路加看護大学側から、主聖堂の尖塔を目印に入られると便利です。

定員 20名(各回とも先着順です。) 参加費 500円(現地徴収)

【訪問内容】 訪問に当たって、次のようにお願いしてあります。

### 1、下記についての説明及び質疑応答

- (1) 緩和ケア病棟の設置及び運営の理念
- (2) 施設及び運営体制の概要
- (3) 患者に対する医学的、生活的、心理的なケアとスピリチュアル・ケア
- (4) 家族・特に遺族に対するケア
- (5) スタッフのストレス・ケア
- (6) ボランティアについて。位置付け、体制、教育訓練、ストレス・ケアなど

### 2. 許される範囲での施設見学

【申込方法】：氏名・郵便番号・住所／携帯番号(当日連絡用)／メールアドレス／

参加希望：第1回、第2回を書いて、下記申し込み先まで。

・申込フォームの URL <https://goo.gl/forms/9Xv2UjUFM1FMiJ9e>

・ファクス： 050-3737-2636

(いただいた個人情報は、名簿化して、病院に提出するほか、本訪問に必要な連絡に使用します。それ以外の目的に使用することはありません。)

問合せは、080-2251-0761(後藤) 又は090-9146-6667(関根)まで

交通： 聖路加国際病院 〒104-8560 東京都中央区明石町9-1

電話 03(3541)5151(代表) <http://www.luke.ac.jp/>

営団地下鉄日比谷線築地駅下車 (入船橋方面3、4番出口) 徒歩3分

営団地下鉄有楽町線新富町駅下車 (6番出口) 徒歩5分

☆ 申し込み用QRコードは、次のとおりです。



◆◆◆2018年開催の5～6月の講演会・セミナーの報告・感想◆◆◆

◆◆ベグライテン 5月公共例会 講演+若者によるシンポジウム◆◆

ベグライテン公共例会は下記の要領で実施し、世話人のお一人、小宮終太郎さんから頂きました。

【講師】雨宮処凜さんの基調講演 (60分)+若者の皆さんによるシンポジウム (100分)

【テーマ】「平和のために私たちは何をすべきか」

【日時】5月12日(土) 午後13:30~16:30

【場所】上智大学四ツ谷キャンパス 6号館3階 302教室

【主催】ベグライテン ミシュカの森【共催】上智大学 哲学科

## ◆5月例会 『平和のために何をなすべきか』の報告と感想◆

小宮修太郎

この数年間、私たちはいろいろな形で戦争と平和に関連する諸問題を考えさせられてきました。集団的自衛権の問題、沖縄の基地移転の問題、そして今でこそようやく融和・平和の兆しが見えてきましたが、一時は一触即発の状況にまで立ち至っていた米朝間の核ミサイル問題などです。ところが、この核問題が発生して以来ずっと「最大限の圧力を」と米側に要求し続け、何の助けにもならないミサイル落下時の避難訓練にのみ熱心だった安倍政権の頼りなさを見れば、私たち自身が平和のために動き出さなければならないと真剣に考えさせられる、そんな状況になっていました。

そうした状況を背景に、昨年度からベグライテン若者グループとして動いてきた私たちは、自分たちにも何かできることはないかと考えて、この集会を企画しました。年初に思いついて以来、幾多の紆余曲折はありましたが、雨宮処凜さんという最適の方に講演をお願いでき、テーマに関連する諸分野で活躍中の6人の若者にシンポジストとしての登壇をお願いできて、ようやく準備が整ったと思えたのは、4月末・5月初めのことでした。雨宮さんの人物像については過去の集会や著作を通じてだいたいのイメージはありましたが、シンポジストのうち過半数の皆さんについては面識もなかったため、プログラムのシンポジウム部分についてはどんなものになるか、フタを開けてみないとわからないというのが事前の心境でした。

当日の様子は以下に報告しますが、私の感想を一言で言いますと、・・・集会準備締め切りの時間に追われ、無我夢中でやってきたのだが、結果的には、主催側の自分たちも予想しなかったようなユニークで力感にあふれた作品、個性的で魅力的なキャラクターたちが自己主張しつつ、しかも全体としてまとまりのあるという、なかなか味わい深い作品が出来上がった。いつのまにか、こういう作品を作っていたんだな。・・・集会の終わりが近づくとつれて、そういう思いが生まれてきました。具体的に説明しますと・・・

まず、雨宮さんの講演です。メンバーの中島さんが聞き手となり、雨宮さんの著作『14歳からの戦争のリアル』の中の内容をめぐってインタビューしていくという形式で進められました。イラク・バグダットの小児病院の話、韓国の徴兵拒否でフランスに亡命をした若者の話など、処凜さんが目の当たりにした現実や出会った人々についての思い出が平易な言葉で語られて、内容が聞く人の心によく伝わっていくのを感じました。私が特に注目したのは、語りの生み出す臨場感です。それによって、聞き手の中に彼女の体験したことを追体験するような感覚が生まれていくのだと思いました。もう一つ心に残ったのは、「若い世代へのメッセージは？」と問われたときに、「(戦争について考えていくなら)体験を持った人との出会い、対話を通じて深めていってください。」と答えていたことです。自身の歩みを踏まえた、傾聴すべき一言に思えました。

次に、シンポジウムの模様です。詳しく説明すると長くなりますから、ポイントのみ。ブリッジ・フォー・ピース(フィリピンでの戦争被害をめぐり、加害者の元兵士と現地の人々をつなぐ活動をしている)の金子聖奈さん。静かな語り口のうちに、過去の戦争と誠実に向き合うというのは、こういう姿なのだという素晴らしい見本を見るような思いがしました。沖縄の基地を引き取る会(まさに、そういう活動を始めた会)

の森田さん、幸地さん。安保条約の体制を肯定し、享受しながら、それに伴う基地の負担は沖縄のみに押し付けて、顧みない本土日本人のあり方・・・そうした「平和日本」の根底を問い直そうという二人の話は聞く人の心に響く力がありました。東京高校生平和ゼミ（日本各地で平和に関心ある若者を集め、毎年広島・長崎見学などのイベントを行っている）の太田君。最年少ながら、日本の政治の現状を深くとらえて、国会改革の提言まで自分の言葉で語るという意識の高さ、雄弁さに驚きました。ピースボート（核兵器禁止条約実現に向けた活動を世界レベルで実践してきた）の畠山さん。日本人の多数が口にする「でも、現実的にはね・・・」という「でもでもリアリズム」に対抗して「もう一つのリアリズム」への理解・賛同を広めていきたいという、まさに実践の核心とすべき言葉を示してくれたことが深く心に残っています。われらがメンバーの芦名さんは、日本の政治状況の根底にある私たち自身の意識やコミュニケーションの状況、もやもや感を聞き手の実感を誘うような言葉で語ってくれました。そういう現実をふまえながら、憲法カフェ、若者トークカフェなどの人々が出会える空間を作り出して、この状況を一步步変えていきたいという理念と方法が語られました。

最後に第3部として例会参加者と各団体との交流が会場内の各所で行われ、熱心に語り合っている姿が見られました。例会後の懇親会も含めて、こういう人と人との出会いの機会を作れたことも、私たちの取り組みの成果の一面だったと思います。

参加者からの反応、コメントも好意的で実感のこもったものが多かったので、まずまず成功裡に終えることができたのかな・・・とスタッフ一同とも総括したところです。ベグライテンの皆さま、今後ともよろしくお願いたします。

## ◆◆ベグライテン セミナーのご報告とご感想◆◆

### ◆ケアの哲学入門講座 2018 ケアの人間学 ～いのちを紡ぐ・ひとをつなぐ～(第2回)◆

【日時】2018年6月17日(日)14時～16時半 【場所】上智大学 四ツ谷キャンパス 6号館202教室

【講師】宮子 あずささん(看護師・文筆家) 【テーマ】臨床で働くということ～選択を巡る苦悩を引き受ける

【参加費】1,000円(学生/障害・生保のある人 500円)

【主催】ベグライテン ミシュカの森 【共催】上智大学 哲学科

ケアの哲学入門講座2018@上智大学。講師は看護師の宮子あずささん「臨床で働くと言う事～選択を巡る苦悩を引き受ける～」豊かなお人柄の魅力が横溢し、介護、医療分野のみならず、治療的司法に携わる弁護士さん、ハワイでグリーフサポートを展開しておられる方など多彩な方々の参集に感謝します。

頂いたアンケートより、ご感想アップします。

★母子関係から学生時代、ナースとしてのキャリアで常にご自分と向き合っただけで考え方や特性などを明確化されていることを学ばせていただきました。患者さんによく関わるためにも、自分がよくわかっている必要があると思いました。結果重視の「できる」よりもプロセス重視の「わかる」の価値と言うお話がヒントになりました。実際に患者さんを前にして、自分たちの選択や判断が楽し正しいのかどうかと考えながら、迷いながら仕事を続けていくしかありませんが、自分のキャリアがどの段階にあるのか、考え方や対応がどう変わっていくのか意識していきたいと思います。 日高賢さん

★看護師として働く辛さや臨床における辛さについて、具体的に伺うことができてよかったです。看護師を続ける秘訣を教えていただいたことを知り合いのナースにも伝えたいと思いました。市場原理が働かない医療の大変さを知りました。命に直結する判断は時間的にも逼迫している中での決断の難しさも。無駄な延命はしないでと希望しても、実際その場になってみないとわからないと言う事はもっともだと感じるので、人工呼



吸器をつけると外せないとなっている現状は、私個人としても家族の負担や経済的な点からも、もう少し柔軟に考えていいのではないかと考えます。 MY さん

★グリーフサポートに関わっております。ボランティア中心の NPO なので、お話を伺い、共通する辛さを知らず知らず抱えている可能性について思い至りました。月一回ではあってもなかなか労られる事はなく、グリーフに終わりが無いことに無力感を抱く可能性も高いこと、続けることが辛くなるファシリテーターもいらっしゃるかもしれないこと、などなど…。今後、ファシリテーターの方たちへの心理的サポートについても、考えていきたいと思いました。ありがとうございます。事例のお話からは、医療サポートの難しさについての理解が深まりました。知識として知らないことが多かったです。 巖岩奈々さん

### ◆「マギーズ東京」訪問会のご報告とご感想◆

がんとともに生きる活動を進めている「マギーズ東京」を訪問する会を昨年引き続き、今年も下記の日程で行いました。「マギーズ東京」は、がんになった人とその家族や友人など、がんに影響を受けるすべての人が気軽に訪れて、安心して話したり、また自分の力を取り戻せるサポートもある。それがマギーズ東京です。「暮らしの保健室」訪問会でもお世話になった秋山正子先生（マギーズ東京 センター長）はじめ関係者のご厚意により実現したことをご報告します。

【訪問日時】 第1回 2018年5月19日（土） 14:00～16:15  
第2回 2018年6月9日（土） 14:00～16:15

【集合】 ★マギーズ東京 〒135-0061 東京都江東区豊洲 6-4-18

参加下さった方から頂いたアンケートから、ご許可を得てご感想アップ致します。

(5/19のご感想から)

- ★2年前に膵臓癌で母をなくし、また知人も癌を患っており、そうした経験を今後何か生かしていればいければと思います、本日参加させていただきました。地元は広島なのですが、マギーズのような施設を作りたいという目標ができました。重田真利さん
- ★病気の偏見をなくす試みあるといいと思いました。今日のお話は、医療的なことというより、社会的な課題だと感じました。病気を持つことで社会的な不利を被らないよう運動するよう必要があると考えました。間庭尚之さん
- ★2016年のオープン以来、一度伺ってみたいと思っていましたので、今日やっとなることができ、貴重なお話をたくさんうかがわせていただき、とても感謝しています。木の香りが漂い、明るい光が差し込む空間では、訪れた方が誰しもリラックスできるだろうと思いました。自分にも何かできる事はないか、できることがあればさせていただきたいという気持ちになりました。最後に、タクシーの運転手さんが、隣のシアターのことを知っていたのに、マギーズのことを知らなかったのも、もっとマギーズのことを知る人が増えてほしいと思いました。大岡友子さん
- ★初めてマギーズに関して学びましたが、がん患者さんにとってはとても有益な場所となっていると知りました。運営に関して、2020年で、一度土地を再考するという事で、数多くの困難もあると学びました。2020年以降もぜひ活動していけるよう願っております。日高佑都さん

(6/9のご感想から)

- ★今日、初めて見学させていただきました。秋山さんの話を伺いながら、こちらを立ち上げるまでのご苦労や、建物についての環境としての重要なポイントなど、活動の概要を知ることができました。ガンに関わっている方々は、誰でもこの場所に来られて名前も聞かれず、誰かと話をしても、1人でいても、本を読んでも、

相談しても、というマギーズのコンセプトに刺激を受けました。私は鈴木美穂さんと同業で他局で長年働きながら、心理療法やグリーフケアを学んできました。マギーズを知ったのも鈴木美穂さんの先輩から彼女の活動を話してもらったことがきっかけです。今後自分がどのように活動していくか、深く考える機会が得られたと思って感謝しています。ありがとうございました。檀野竹美さん

★初めて訪問させていただきました。木の優しい建物に癒されました。床から伝わる木の優しさ、白木の柱が木の幹の感じがして、森の中にいるようでした。マギーズは癌に特化しているようですが、地域に癌でない人たちの居場所ができたらしら思っているのも、とても良い参考になりました。常に外にアンテナを張り、いろいろな人たちとつながることの大切さ改めて感じました。障子の二重ばりはとても参考になりました。木口喜由江さん

★居場所として建築などの環境が大きいことを知り、確かに実感しました。こういうところの発想は、癌のみならず心の痛みを抱えていたり、グリーフを抱えてる方の居場所として必要なことを感じました。かつて心の痛みを抱えている人を森林の中の家で話をするのはどうかと考えていたことと似ていて驚きました。実際に実施されているお力にすごさを感じています。どうやったら力を出せるのか知りたいです。田中啓子さん



## ◆◆ 5月～6月開催の憲法カフェの報告と感想 ◆◆

ベグライテン 第16回「憲法カフェ」；6月28日（木）の報告

「“モリ・カケ”の今後、改憲の動きに油断なく」をテーマに、午後6時半から、四谷の東京法律事務所会議室で開かれた。メンバーの中にも「遠のいた」との油断があるのか、参加者は7名と少なかった。岸弁護士から緊急報告として、国民投票法改正案の動きと新宿区のデモ規制強化について、6月28日付け「朝日」と「東京」の報道が紹介され一定の議論が交わされた。とくにデモ行進のための集会場所として新宿区の4つの公園が使用されてきたが、区の一部長の判断で1か所に制限されたことに懸念と怒りが集中。

ついで森世話人から「護憲的改憲論」は「安倍改憲」にたいする現実的対応策足りうるか、のテーマで、「登場の背景」、「9条の理念が損なわれないか」、「朝鮮半島の非核化の新しい流れの影響」との3点から話題提供されたが、ここでは詳細は割愛して概要のみ紹介します。

世論調査では、「9条改憲反対」が賛成を上回っているけれど、「何らかの改憲は賛成」と「自衛隊の認知に賛成」は反対を大きく上回っている。ここに「安倍改憲案；9条1,2項をそのままにして、新たに自衛隊を明記」が浸透する危険性が指摘された。ここに「護憲的改憲論」が護憲運動全体に亀裂をもたらしかねない点も指摘された。

「護憲的改憲論」の特徴は、自衛隊を認知する立場で、「専守防衛」、「個別的自衛権」にとどめる、海外派兵はしない、国際貢献はNGOで、PKOへは国連監視団の派遣、などが主張されている。結局、9条の理念の世界に誇るべき2項の「戦力不保持」「交戦権の否認」が明文改憲されることにおいては、安倍改憲より悪質かもしれない。

議論では、憲法の成り立ちから戦後歴代の自民党政権が、アメリカの圧力を受けて改憲を目論むも、野党の3分の1の壁を突破できず「なし崩し改憲」とせざるを得なかったこと、安倍の祖父岸信介首相の悲願の改憲も60年安保を通過させて退陣。それが2014年7月の安倍政権による「集団的自衛権の一部容認」の閣議決定をターニングポイントにルビコン川を渡り、その後、憲法学者のほとんどが違憲とみなした安保法制を強行可決し、憲法9条の骨抜きが決定的になった。

モリ・カケや公文書改ざん問題が再燃したため、改憲論議は一見、遠のいた感がいなめないが、敵はしたたかである。9月の総裁選で安倍総理が3選を果たしたらしゃにむに改憲に突入してくるであろう。中野晃一先生の言を借りれば、「ある意味では手負いの猛獣、瀕死状態にあるだけに獐猛になっている。だからこそ危険性を軽視することなく、政権も改憲もとどめを刺すことが求められている」（『前衛』6月号より）森 正樹

## ★★ その他のカレンダー★★

### ◇コミュニティカフェ「スペースナナ」講座◇

地域でゆるやかに支えあう場を作ろう —生き心地のよい新しいコミュニティのつくり方

年齢、性別、国籍、障害のあるなしにかかわらず、誰もが安心して立ち寄り、元気になれる場を地域で作りたいと、をオープンして7年半の月日が経ちました。多様な人たちがゆるやかに支えあえるような地域づくりをめざして連続講座を毎年開き、2015年2月からは誰もが参加できるナナ食堂を月2回開いています。今年度は、地域でさまざまなかたちで〈生き心地のよい新しいコミュニティづくり〉に向けて様々な試みをしている方たちをお呼びして8回の講座と1回の映画会を企画しました。

お話の後、ゲストを交えて参加者同士の交流の時間をとり、場づくりを始めた方、始めたい方たちの情報や知恵の交換の場となることを願っています。

#### 【日程とタイトル・ゲスト】

◆第3回 7/7（土）共に生きることで悲しみを〈生きる力〉に

◆ゲスト：ミシュカの森主宰 入江杏（いりえ・あん）さん

2000年年末に起きた世田谷の一家殺人事件で妹さん一家を亡くされた入江さんは、希死念慮に憑りつかれるほどの悲しみののちに、犯罪被害からの回復、自助とグリーフケアに取り組み、絵本『ずっとつながってるよ こぐまのミシュカのおはなし』の創作と読み聞かせ活動を行い、震災後は被災地での読み聞かせ、自殺や難病などの問題にも活動の領域を広げ、当事者の声を社会につなげようとされています。喪失体験をした人が悲しいときは泣き、うれしいときは遠慮なく笑えて、思いを発信できる社会にしたいし、それを受け入れられる社会にしたいと活動を続ける入江さんに、地域で悲しみを支えあうにはどうしたらいいか、お話を伺いたいと思います。

◆第4回 7/14（土）社会的養護が必要な子どもたちを地域で支える

「ファミリーホームばあばば」代表 山本節子さん

山本節子さんは、児童養護施設で7年間働き、退職後に婚家に次々と訪れる行き場のない施設の卒園生たちを受け入れ、施設から頼まれ脳性まひの子を預かるうちに里親を始めることになり、30年間で19人の子どもを預かり、2009年からはファミリーホーム「ばあばば」として、6人の子どもたちと生活を共にしています。子どもたちが困ったときに助けてくださいと頼める人をたくさんもたせてあげるのが目標と語る山本さんに、社会的養護が必要な子どもたちに地域で私たちが何ができるかについて伺い、考えてみたいと思います。

◆第5回 9/23（日）「発達障害って何？ 共に暮らし働くことを考える」河村哉子さん・吉田朋子さん・中畝治子さん(障害児をもつ母たちのグループ「マザーズジャケット」)

◆第6回 10/27（土）「ひとりでないことを知ってほしい」林恭子さん（引きこもり女子会）

◆第7回 12/9（日）「親や親せき、近所の人、友人とは少し違った新しいコミュニティ」中泉里奈さん他（あらかわシングルマザーサポートネットワーク）

◆第8回 1月26日(土)映画上映会「夜間保育園を知っていますか」

◆第9回 2月(調整中) タイトル検討中

鹿目久美さん(福島県大玉村から県内に母子避難、保養グループ「母ちゃんず」)

松本徳子さん(福島県から県内に避難、避難の協働センター世話人)

岡田めぐみさん(福島から武蔵野市に避難、むさしのスマイル代表)

#### ◇こまば当事者カレッジ「認知症を考える」のご案内◇

こまば当事者カレッジは、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属「共生のための国際哲学研究センター」(UTCP)・上廣共生哲学寄付研究部門(「障害と共生」プロジェクト)の主催によるものです。本カレッジは、様々な障害をもつ当事者、当事者の家族、支援者、専門職、研究者、学生などが共に学ぶ場を提供することを目的としています。各期にテーマを設定したコースを開講し、各コースでは、障害に関して様々な視点から研究や活動を行っている方を講師としてお迎えします。

当カレッジでは2018年夏期コース「認知症を考える」を5月より開催いたします。

本コースのプレイベントとして行われたシンポジウムで、参加者からシンポジストに対して様々な質問が寄せられました。そのなかに、次のような趣旨の質問がありました。ご自身が認知症になったらどのように生きていきたいですか?シンポジストの1人は次のように応答しました。この問い自体が、認知症になったら生き方を変えなければならないということを前提にしているのではないのでしょうか?

認知症と診断されてもそれまでの本人の歴史を尊重し、未来への希望を叶えるために、当事者、専門家や支援者、家族、一般の人々はどうすればいいのでしょうか?本コースでは、そうした社会の実現に向けて積極的に発言されている専門家と当事者の方々を講師としてお招きし、共に学び、考えていくことを目的としています。

本コースは、全6回(予定)のレクチャー&ワークによって構成されています。各回のレクチャー&ワークは、講師によるレクチャー部分の前半と、レクチャーを受けて、講師と参加者の皆さんで議論していただくワーク部分の後半に分かれます。ワークでは、各回のテーマについて、小グループに分かれてディスカッションなどを行う予定です。全6回のレクチャーとワークを通じて、認知症の当事者にとって生きやすい社会とはどのようなものなのかを考えていきたいと思えます。

【コース日程(予定)】※いずれも13時~17時を予定 【会場】東京大学駒場Iキャンパス内

【レクチャー&ワーク テーマ・講師】(※各テーマは暫定的なもので変更の可能性があります。)

7月14日(土) 「認知症の人類学」北中淳子(慶應義塾大学)、小林孝彰(認知症ケア町田ネット世話人)

7月21日(土) 「介護現場からの問い」金山峰之(ユアハウス弥生)、堀田聰子(慶應義塾大学)

8月4日(土) クロージングワークショップ

※他に上野秀樹さん(千葉大学)を講師として予定していますが、日程は未定です。

日程が決まり次第ご案内します。

・各レクチャー&ワークごとに参加者を募集します。(募集開始時期は未定です。ご希望の方には、募集開始時にご連絡しますので、件名を「2018夏期コース案内希望」として、下記お問合せ先にメールをお送りください。)

・本コースの参加費は無料です。(懇親会や昼食会などを行う場合には、会費を頂戴いたします。)

また、テキストなどを使用する場合には、原則として各自でご用意していただくことになります。)

【問合せ先】 こまば当事者カレッジ [tojisha-college@utcp.c.u-tokyo.ac.jp](mailto:tojisha-college@utcp.c.u-tokyo.ac.jp)

◇真生会館 土曜日講座「この国のかたちを考える現」講座◇  
～生きる喜びを見出すために～

【場所】 真生会館 〒160-0016 東京都新宿区信濃町 33 番地 4 真生会館ビル

【アクセス】 JR 総武線信濃町駅改札を出て右側徒歩 1 分

【お申込み・お問い合わせ】 一般財団法人真生会館→ <http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

電話 03-3351-7121 (受付代表・受付時間 10:00-16:45) ファックス 03-3358-9700

E-mail: [gakushu@catholic-shinseikaikan.or.jp](mailto:gakushu@catholic-shinseikaikan.or.jp)

【日時と講師・テーマ】 土曜日のいずれも時間は 13:30~15:30 です。

\*7月14日 結城康博(淑徳大学教授) だれもが安心して暮らせる社会とは

◇グリーフサポートせたがや連続講演会◇

【日時】 第1回: 2018年7月15日(日曜日) 午後2時~5時

【会場】 三茶しゃれなあとホール「オリオン」(世田谷区太子堂2-16-7 三軒茶屋分庁舎5階)

【講師】 石井 千賀子氏(世田谷区グリーフサポート検討会委員、ルーテル学院大学等)

【テーマ】 あいまいな喪失とトラウマからの回復

【日時】 第2回: 2018年9月1日(土曜日) 午後2時~5時

【会場】 三茶しゃれなあとホール「オリオン」(世田谷区太子堂2-16-7 三軒茶屋分庁舎5階)

【講師】 小嶋 リベカ氏(臨床心理士、国立がん研究センター中央病院ホスピタルプレイスタッフ等)

【テーマ】 「子どものグリーフと遊びのちから」

【日時】 第3回: 2018年11月18日(日曜日) 午後2時~5時

【会場】 世田谷文化生活情報センター「生活工房」セミナールーム AB

(世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー5階)

【講師】 倉石 聡子氏(アートセラピスト、臨床心理士)

【テーマ】 「グリーフサポートとアートのちから」

◇～沖縄問題を「本土」から考える～米軍機はなぜ落ち続ける◇

【日時】 2018年7月7日(土) 13:30~17:00 【場所】 明治学院大学白金キャンパス地下1階3号館3102教室

【プログラム】 第一部 講演 「主権なき国家のひずみ～沖縄問題を東京で考える～」

沖縄タイムス政治経済部 福元大輔

第二部 報告1 「宮森小学校・米軍機墜落事故について」

報告2 「嘉手納基地・B52 墜落事件について」 報告後、パネルディスカッション

◇学者の会シンポ「徹底検証 いま、日本の政治をどう変えるか—さよなら安倍政権」◇

【日時】 2018年7月7日(土) 13:30~ 【場所】 明治大学リバティタワー

【登壇者】 経済・浜矩子／憲法・水島朝徳／社会政策・大沢真理／外交・遠藤誠治／メディア・西谷修／  
教育・佐藤学／広渡清吾 <https://twitter.com/anpogakusya/status/1008145175145660416>

◇国のために死ぬのはすばらしい？ イスラエルから来たダニー・ネフセタイさんのおはなし◇  
【日時】 2018年7月8日（日）13：30より（13：00開場） 【場所】 練馬区役所アトリウム 地下多目的会議室  
【資料代】500円（ペアでも500円！） 18歳以下無料 <https://www.facebook.com/events/1727727660644979/>

### ◇「市民連合めぐろ・せたがや」対話集会のお知らせ◇

地域で、市民と政党が常に対話していく仕組みとサイクルが大事です。「市民連合めぐろ・せたがや」では、市民と野党の共闘でたたかった昨年秋の総選挙以来、12/3、1/14、4/1と「めぐせた定期対話集会」を開催してきました。今回は主に、今国会と今後の野党共闘をテーマにして、対話したいと思います。趣旨に賛同される方はどなたでもご参加頂けます。他地域からのご見学も歓迎です。

【日時】 2018/7/8（日）（開場18時）開会18:15 【参加費用】 資料代100円

【場所】 太子堂区民センター1階和室（椅子あり、100人） 世田谷区太子堂1-14-20

第一部（18:15～19:20）： 政党の方々からのご報告

第二部（19:30～21:00）： 参加者とディスカッション

【出席予定者】 手塚よしお（立憲民主党衆議院議員、5区）、落合貴之（立憲民主党衆議院議員、6区）、長妻昭（立憲民主党衆議院議員、7区）、吉良よしこ（日本共産党参議院議員）、羽田圭二（社民党世田谷総支部代表、世田谷区議会議員）、渡辺浩一郎（自由党東京都連会長）

\*次期衆議院選の政策協定は、解散時に行う予定ですが、その時に備えて「市民連合めぐろ・せたがや」から提案する案文を作成しました。「目黒・世田谷」のページに掲載しています。

### ◇日本における人身売買と現代の奴隷制～2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて～◇

【日時】 2018年7月11日（水）18:30～20:30（開場18:00） 【場所】 上智大学四谷キャンパス図書館棟L-911  
<https://www.facebook.com/events/1535031829952391/>

### ◇戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会◇

／安倍9条改憲NO！全国市民アクションNO！全国市民アクション

【日時】 7月12日（木）18：30～ 森友・加計学園疑惑徹底追及！安倍内閣は総辞職を！国会前連続行動  
7月19日（木）18：30～ 「19日」・国会議員会館前行動

【場所】 衆議院第2議員会館前を中心に

【主催】 戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会／戦争をさせない1000人委員会

### ◇目取真俊さん講演会 海鳴りの島から沖縄・辺野古の闘いを語る◇

【日時】 2018年7月14日（土）18：30開場 18：45開演 【場所】 船橋市東部公民館 講堂

<http://www.labor.net.jp/EventItem/1529836592545matuzawa>

### ◇被爆者の声をうけつぐ映画祭◇

【日時】 2018年7月14日（土）、15日（日） 【場所】 武蔵大学江古田キャンパス

7月14日（土）大講堂 7月15日（日）8号館7階8702 <https://hikakueiga.exblog.jp/>

◇インタビュー講座＜憲法再入門＞第6回◇

『戦争経済大国』日本の真実—他国の人々の屍と引き換えに得た「平和」と「繁栄」

【日時】2018年7月14日（土） 14:00～17:00

【会場】神奈川県労働文化会館（通称・自治労神奈川県本部会館）

<http://maeda-akira.blogspot.com/2018/06/blog-post.html>

◇公開研修「老いと死を受けとめる生き方とは—納得死の実現に向けて—」 ◇

シニアのための電話相談事業「東京YWCAシニアダイヤル」主催の公開研修を開催します。

自分、あるいは周りの家族や友人の老いや死に接するとき、あなたはどのように受けとめますか。

川越厚氏を講師に迎え、お話を伺います。

【日時】2018年7月14日（土）14:00～16:00（13:30開場） 【定員】150人

【会場】東京YWCA会館 カフマンホール 【参加費】一般 1,000円 / 学生 700円

【申込方法】Emailでお申し込みください。k-koretsune@tokyo.ywca.or.jp

【お問い合わせ】シニアダイヤル事務局 TEL.03-6895-5440

Email: k-koretsune@tokyo.ywca.or.jp（担当：是常）

【講師プロフィール】川越厚氏：1947年山口県山口生まれ。1966年私立広島学院高校卒業。1973年東京大学医学部卒業。茨城県立中央病院産婦人科医長、東京大学講師、白十字診療所在宅ホスピス部長を経て、1994年より6年間、賛育会病院長を務め、退職。2000年6月、自らのクリニックを開業すると同時に、在宅ケア支援グループ・パリアンを設立。2010年第6回ヘルシー・ソサエティ賞受賞。2014年11月、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」出演。

◇しながわチャイルドライン主催 土井高德氏講演会◇

【日時】2018年7月14日（土）13時半～（受付13時）

【講師】土井高德さん 【】 困難を抱えた子どもたちに私たちのできること

【会場】品川区健康センター7階ホール（京浜急行新馬場駅北口下車徒歩2分）

【参加費】無料 要申込み→shinagawachildline.kouza.info@gmail.com 又はFAX 03-5462-2868

ホッと安心できる「電話でつながるこころの居場所」それがチャイルドラインです。

私たち、しながわチャイルドラインは、こどもたちには自分自身で課題と向き合い、乗り越えていくちからを持っていると信じています。電話のむこう側にいる子どもと共有できる時間を大切に、子どもの「ことば」の奥にある「こころ」に寄り添い、耳を傾けたいと活動しています。

今年は、土井高德さんをお迎えして講演会を開催します。土井高德さんは北九州市で土井ホームを運営し、さまざまな困難を抱えた子どもたちの支援を行なっておられます。講演では土井ホームでの取り組みの具体的な事例を交え、困難を抱えた子どもへの対応についてお話いただきます。問題を抱える子どもと、どのように接しながら、子どもたちが安心して暮らせる生活を保障し受け止めています。また傷つきからの回復や他者への信頼感を取り戻す援助も行っています。その話は、ユーモアにとみ、子どもとの接し方に悩む親たちの支援にもつながっています。多くの著書はわかりやすく、親子関係は勿論のこと、人間関係の温かさや機微が、伝わってきます。

【講師プロフィール】1954年福岡県北九州市生まれ。土井ホーム代表。学術博士。北九州市立大学大学院非常勤講師、福岡県青少年育成課講師、京都府家庭支援総合センターアドバイザー、産業医科大学治験審査委

員会委員。ソロプチミスト日本財団から社会ボランティア賞、福岡キヲニスクラブから第24回キヲニス社会公益賞を受賞（本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです）

『ちょっとしたストレスを自分ではね返せる子の育て方』より

### ◇「コスタリカの奇跡」上映会◇

軍隊を持たなくて国を守れるのか？その答えをこの映画が伝えます！

1949年に、アメリカの喉元に位置するコスタリカという国が、軍隊を持たない国に対しては、相手は戦争を仕掛けられないと言う理念のもとに「軍隊を持たない憲法」を宣言しました。

この映画は、そのきっかけや現在の状況取材した映画です。

33年前に「平和都市宣言」を打ち出した世田谷だけではなく、広く皆様と「平和」を改めて考えるきっかけになれば、と企画しました。

ショートバージョンではカットされてしまっている、《エクアドルの内戦に端を発した中米戦争にコスタリカが巻き込まれた戦闘の様子、その状況からコスタリカの人々が「軍隊は不要だ」と再度決意されていく部分がしっかりと表されている》の部分も含めて、皆様に観てもらいたいと考え、フルバージョン上映に踏み切りました。ぜひご覧ください。なお、浦和でも7月27日〈金〉18:00より、駅前（東口）のPARCO 10階で上映会を開催します。ゲストには「軍隊を捨てた国コスタリカに学び平和をつくる会」（略称“コスタリカに学ぶ会”）の世話人小倉志郎氏（もと東芝原子力関連技術者）をお招きし解説をしていただきます。400人収容の部屋を準備いたしましたのでどうぞ皆さまご参加ください。

【日時】2018年7月15日（日）1回上映 ・開場 18:30 ・開会 19:00

【会場】世田谷区立烏山区民会館ホール 京王線千歳烏山駅徒歩1分 〒157-0062 世田谷区南烏山6-2-19

地図：<https://www.setagaya.co.jp/kuminkaik.../karasuyama/access.html>

【チケット料金】999円 【ゲスト】星野やよい氏（コスタリカに学ぶ会 代表）他

【主催】コスタリカの奇跡上映実行委員会 狛江/世田谷【後援】世田谷区 世田谷区教育委員会

【申し込み】チケット前売りあり 当日参加可 ※事前お申込みは以下のリンクから行えます

<https://www.kokuchpro.com/.../043ef901ce7986a59618ec8eff2cb2.../>

### ◇高橋哲哉・前田朗『思想はいまなにを語るべきか』出版記念会◇

【日時】2018年7月15日（日）午後14時～17時（開場13時30分）

【会場】港勤労福祉会館 会議室 [http://maeda-akira.blogspot.com/2018/06/blog-post\\_87.html](http://maeda-akira.blogspot.com/2018/06/blog-post_87.html)

### ◇前川喜平氏講演会のお知らせ◇

【日時】2018年7月20日（金） 18:30開場/19:00開会

【場所】府中市民活動センタープラッツ バルトホール（京王線府中駅南口ルシーニュ5階）

【参加費】一般：300円 大学生以下：無料 障がい者の方は介助者無料

<http://d.hatena.ne.jp/peace25/20180422>

### ◇港・文化の会主催 望月 衣塑子記者講演会 @慶應義塾大学◇

【日時】2018年7月20日（金）18:30開場/19:00開会

【場所】慶應大学三田キャンパス 北館ホール 港区三田2-15-45

【アクセス】JR 田町駅 都営三田線 三田駅 都営大江戸線 赤羽橋駅 徒歩8分



【講師】望月 衣塑子さん（東京新聞社会部記者・慶応塾員）

【テーマ】 戦争とメディア 【参加費】 一般 1,000 円／学生・20 歳以下 無料

【主催】 港・文化の会 （当日の司会は港・文化の会世話人の大西広 慶應義塾大学教授です）

【問い合わせ】 03-3440-0738 （廣谷）

#### ◇朝日カルチャーセンター講座 いま改めて公共哲学の意義と役割を考える◇

ベグライテンに公共哲学を学ぶきっかけを作ってくださった、山脇直司先生（東京大学名誉教授）が、朝日カルチャーセンター（新宿）で、短期の講座を開きます。

公共哲学は、「市民的な連帯、批判的な討論にもとづいて公共性の蘇生をめざし、学際的な観点に立って、人々に社会的な活動への参加や貢献を呼びかけようとする実践的哲学」（『広辞苑』第7版）とも、「より良き公正な社会を追究しながら、現下で起こっている社会問題を市民(the public)と共に論考する哲学」（山脇直司）とも定義されるが、それはアリストテレスや孟子に由来する由緒ある学問と言ってよい。

今回は、混迷する現代社会の中で果たしうる公共哲学の意義と役割を、教育、メディア、福祉、国際関係の各分野で考えてみたい。（講師・記）

#### <各回のテーマ>

第1回 7月20日 教育の公共哲学 第2回 8月3日 メディアの公共哲学

第3回 8月17日 福祉の公共哲学 第4回 9月7日 国際関係の公共哲学

第1週・第3週 金曜 18:45-20:15 7/20～9/7 4回

受講料（税込み）7月～9月（4回） 会員 12,960 円 一般 15,552 円

#### ◇インタビュー講座<憲法再入門>第7回 国のかたちと家族のかたち◇

【日時】2018年7月21日（土）開場午後1時30分、開会午後2時～閉会午後5時

【場所】青山学院大学総研ビル11階19会議室 [http://maeda-akira.blogspot.com/2018/06/blog-post\\_14.html](http://maeda-akira.blogspot.com/2018/06/blog-post_14.html)

#### ◇映画「もうひとりの息子」&古居みずえさんパレスチナ報告会◇

【日時】2018年7月21日（土）【場所】高円寺グレイン 【参加費】 1500円（1ドリンク付き）

【ゲスト】古居みずえさん 1988年からパレスチナの女性や子どもたちを追い続ける。2011年から福島県飯舘村に通い、映画「飯舘村の母ちゃんたち 土ともに」を監督。2016年5月、劇場公開され、現在、自主上映を受付中！ <http://www.labornet.jp.org/EventItem/1529390520056emi>

#### ◇第126回市民憲法講座 安倍改憲を必ずとめる◇

7月中旬、第196国会が終わる。安倍首相が政治生命を賭して企てる改憲はどこまで来たのか。

私たちはどのような方法で、これを阻止することができるのか。私たちはどうたたかうか。残された課題は何か。北東アジアに平和と共生の風が吹き始めた新しい情勢のもとで、9条をまもり生かして、北東アジア非核武装地帯の構想の実現のために、国際的な連帯を作り上げたい。ともに考えたいと思います。ぜひご参加下さい。お話は高田 健さん（市民連事務局長、総がかり共同代表）です。

【日時】2018年7月21日（土）6時半開始 【場所】文京区民センター 2階A会議室

<http://www.city.bunkyo.lg.jp/gmap/detail.php?id=1754>

【主催】◆許すな！憲法改悪・市民連絡会【参加費】800円

東京都千代田区三崎町2-21-6-301 03-3221-4668 <http://web-saiyuki.net/kenpoh/>

《芸術と憲法を考える連続講座》 第8回「ナチスの手口」と芸術

【日時】2018年7月24日(火) 18:30 - 21:00 (開場 18:15)

【講師】石田勇治(東京大学教授)

【会場】東京藝術大学 上野キャンパス音楽学部 5号館 1階 109教室

憲法改正にナチスの話を持ち出し「あの手口、学んだらどうかね」と麻生副総理が発言してから5年。今、政権党の主導で改憲への動きが急速に本格化する中で、九条をめぐる論議とならび浮上しているのが、緊急事態条項の追加である。ワイマール民主制は、ナチ党の台頭をなぜ防げなかったのか? 全権委任法とは何か? 芸術家たちはどう生き、行動したのか?

【講師プロフィール】石田 勇治(いしだ・ゆうじ) : 1957年、京都市生まれ。東京大学大学院総合文化研究科教授。専門はドイツ近現代史。マールブルク大学Ph.D取得。ベルリン工科大学客員研究員、ハレ大学客員教授を歴任。主な著書に『ヒトラーとナチ・ドイツ』(講談社現代新書、2015年)、『ナチスの「手口」と緊急事態条項』(集英社新書、2017年、長谷部恭男氏との共著)、『過去の克服 ヒトラー後のドイツ』(白水社、2002年)など多数。

【主催】自由と平和のための東京藝術大学有志の会

◇公正な税制を求める市民連絡会 設立3周年記念集会◇

【日時】2018年7月29日(日) 14:00~17:30 (開場 13:30)

【場所】主婦会館プラザエフ 8階スイセン 〒102-0085 東京都千代田区六番町15

JR四ツ谷駅麴町口(歩1分)・南北線/丸の内線四ツ谷駅(歩3分)

【資料代】1000円 ◆事前申込み不要

【プログラム】14:00~ 総会

14:15~ シンポジウム

基調講演1 松尾 匡さん「財源はある、必要なのは政治的意志だ」

基調講演2 高端正幸さん「税とは何か? 『分かち合い』を実現するための財政社会学」

15:45~ パネルディスカッション

【登壇者】松尾匡さん(立命館大学教授)、高端正幸さん(埼玉大学准教授)、竹信三恵子さん(和光大学教授)、宇都宮健児(弁護士、市民連絡会共同代表)、猪股正(弁護士、市民連絡会事務局長)

【主催】公正な税制を求める市民連絡会 <http://tax-justice.com/>

【連絡先】埼玉総合法律事務所 弁護士 猪股正 TEL048-862-0355

◇エフエム世田谷「世田谷通信 1130 区長の談話室」◇

エフエム世田谷制作のラジオ番組で、入江 杏さん(ミシュカの森 主宰、上智大学グリーンケア研究所 非常勤講師、世田谷区グリーンサポート検討委員)が、保坂展人(世田谷区長)と対談します。番組の司会は、五十嵐由美子FM世田谷アナウンサー。テーマは「悲しみを生きる力に! グリーンサポートの輪」

【放送】2018年8月 5日(日) 11:30~12:00

【再放送】2018年8月12日(日) 11:30~12:00

◇グリーンサポートせたがや「サポコハウス」を訪問してみませんか?◇

「グリーフ」とは、死別等によって、大切な人やものを失って感じる大きな哀しみや傷つき、そしてさまざまな心身の反応のことをいいます。世田谷区では、グリーフやこころの痛みを抱えてひとりで悩んでいる方などに寄り添う支援として、「グリーフサポート事業」を実施しています。

事業の一部は、区が公募で選定した実施団体の、補助事業ですが、その実施団体が「一般社団法人グリーフサポートせたがや」 私、入江杏は、ルーテル学院大石井千賀子先生を座長とする行政のグリーフサポート検討委員として、この事業を見守り続けてきました。この度、この事業を展開するコミュニティの「場」である「サポコハウス」の見学会を機会致しました。この魅力的な「共感の場」、一度お越し下さい。

「ミシュカの森」 入江 杏

★★★★★★★★★★

### グリーフサポートせたがや「ハウス見学会」

子どもや大人が集い、遊びやおしゃべりを通じて、自分のペースで自分の気持ちに触れられる時間を過ごせる場です。アメリカ・ポートランドにある「ダギーセンター」をモデルにしています。「サポコハウス」では、子どもや大人を対象にグリーフサポートプログラムや個別相談、コミュニティカフェを行なっています。

「2018年8月に「サポコハウス見学会」を開催します。個人参加のかたをはじめ、さまざまな団体・医療機関・企業など、ご見学希望の方、どなたでも大歓迎です。ぜひお気軽にお越しください。みなさまとの出会いを楽しみにしています。「サポコハウス見学のあとは、ダギーセンター制作のDVD『教育現場におけるグリーフサポートとは』(30分・日本語字幕つき)を鑑賞し、ご参加いただいたみなさんとおしゃべりする時間をもちたいと思っています。

【訪問日時】 ①第一回目 2018年8月12日(日) 16時~18時(15時50分集合)

②第二回目 2018年8月25日(土) 14時~16時(13時50分集合)

【集合】現地集合 サポコハウス 世田谷区太子堂5-24-20-201

【アクセス】東急田園都市線/世田谷線「三軒茶屋駅」下車 徒歩15分  
小田急バス/東急バス「代沢十字路」下車 徒歩5分

【定員】各回 20名(先着順) 【参加費】500円

【申し込み方法】E-mail : griefsetagaya@yahoo.co.jp でお申し込みください。

御氏名(ふりがな)とメールアドレスを明記し、タイトルを「第〇回 サポコハウス見学会参加希望」としてメールでお申込みください。(先着順です)

★グリサポせたがやからのメール返信をもって申込受付完了となります。返信メールが数日中に届かない場合は、お手数ですが申込メールの再送あるいはお電話でご確認ください。 電話 03-6453-4925

★この見学会は入江杏さん(ミシュカの森主宰)の呼びかけで実現しました。参加費はサポコハウスで行なわれる「子どもグリーフサポートプログラム」運営費として使わせていただきます。

皆様のご厚意に 心より感謝し、グリーフサポートの輪をこれからさらに広げていきたいと思ひます。

【主催】一般社団法人グリーフサポートせたがや 【協力】ミシュカの森

◇東京いのちの電話 被爆ピアノコンサート～未来への伝言～のご案内◇

被爆ピアノコンサート～未来への伝言 2018 ～響け世界へ いのちをつなぐ平和の祈り～  
コンサートは、全国各地で被爆ピアノコンサートを開いてきた Voicek (ヴォイスケ) との共催で、長崎原爆記念日の8月9日(木)に文京シビックセンターで開催されます。

演奏されるピアノは、広島に原爆が投下されたときに爆風を受け、無数の傷を受けましたが、丹念に修復されて、今では力強く美しい音色を奏でています。ピアノ演奏を中心に、歌や踊り、ヴァイオリン演奏、朗読など多彩な内容で、見る人聴く人を楽しませてくれます。ご来場をお待ちしています。

【日時】2018年8月9日(木) 〈昼〉14:30、〈夜〉18:30 \*開場は各開演時間の30分前となります。

【場所】文京シビックホール小ホール 文京区春日1-16-21 文京シビックセンター2F TEL 03-5803-1100

【参加費】チケット、3,000円(全席自由)

【申し込み】いのちの電話・予約 TEL:03-3263-5794 FAX:03-3264-4949

### ◇東京いのちの電話 2019年度53期 相談員募集のお知らせ◇

#### 【応募資格】

1. 22歳～65歳(2019年4月1日現在)
2. 電話相談を担当できる心身の健康を有する方
3. いのちの電話の活動主旨に賛同し、相談員として積極的に活動に参加する意欲のある方

【書類提出期間】2018年9月1日～11月30日 【募集人数】約40名

#### 【提出書類】

1. 申込書をダウンロードし、必要事項を記入して下さい。
2. 自己形成史 履歴書ではなく、これまでの人格形成に影響を与えた人、出来事にふれつつ自分自身の歴史を書いてください。2,000字以上～4,000字以内。(名前明記のこと)
3. 志望動機(800字)(名前明記のこと)
4. 提出書類1.～3.の書類をお送り下さい。

【送り先】〒102-0071 飯田橋郵便局留め 「2019年度 電話相談員養成研修」

\*頂いた個人情報は2019年度期受講生の選考および事務手続きに使用し、それ以外の目的には使用しません。

### ◇「日米合同委員会と謎の権力構造の正体に迫る」講演会◇

【講演】吉田敏浩氏【テーマ】日本の主権を侵害する米軍優位の「密約期間」

【日時】2018年 8/11 13:30-16:00 【参加費】500円 【会場】紅葉坂教会(横浜市西区宮崎町1)

### 人権擁護大会プレシンポジウム「脱貧困強制社会ー働いた分だけしあわせに生きたい」

以前は「働けば生活は何とかなる」のが当たり前だった。

しかし、今の日本の若者は本当に「働けば(まともな)生活ができる」のだろうか。

- ・ネットカフェ等で寝泊まりする住居喪失者のうち75.8%が不安定就労者
- ・住居喪失者等の年齢は、30代(38.6%)が最も多い
- ・15～24歳の非正規の職員・従業員の割合は、47.7%(全体の割合は37.7%)
- ・ブラック企業に使い捨てにされる若者の報道など……………

多くの労働者を取材したジャーナリスト、労働問題にかかわる弁護士、若年労働者の相談を受けている労働組合から話しをうかがい、若者をとりまく労働環境の実態を知り、今後目指すべき方向を探ります。

【日時】2018年8月18日(土) 13:30～16:30 【場所】弁護士会館5階502号室

第1部 基調講演「私たちは『貧困強制社会』を生きている」藤田和恵氏(ジャーナリスト)

第2部 パネルディスカッション

藤田和恵氏 佐藤和宏氏(首都圏青年ユニオン事務局次長) 竹村和也氏(弁護士)

【対象】参加無料 広く一般の方々のご参加をお待ちしております。

【主催】東京弁護士会 【問い合わせ】 東京弁護士会人権課 TEL:03-3581-2205

#### ◇ピースハウスホスピス教育研究所主催による見学会◇

日野原記念ピースハウス病院がどんなところか、一度ご覧になってみませんか？ 院内見学のあとには、お茶を飲みながら看護師や薬剤師などが当院のケアについてわかりやすくお話しします。

【開催日】2018年8月23日(木) 13:45-15:30 【対象】ホスピス緩和ケアに関心のある方【参加費】無料

【お申込はお電話でどうぞ！】電話：0465-81-8904（受付時間：平日9:30～16:30）

- ・ファクスで申込む場合…申込書をプリントして必要事項を記入し、FAX 0465-81-5521 まで送信して下さい。
- ・ネットで申込む場合…申し込みフォームを開いて必要事項を入力し、「メールを送信する」ボタンを押して下さい。

#### ◇ピースハウスホスピス教育研究所主催によるホスピス緩和ケア講座◇

ホスピス緩和ケアに関心のある医療・介護福祉関係者を対象に、ホスピス緩和ケアの考え方、症状マネジメント、チームアプローチ、看護の役割等をご紹介します。

【講座日時とテーマ】9/1(土) がんとともに生きる人々を支える (申込締切日 8/24)

9/13(木) ホスピス緩和ケア ー過ぎたるはなお及ばざるがごとしー 他 (申込締切日 9/7)

9/26(水) 死亡前の兆候と苦痛の緩和 他 (申込締切日 9/18)

【申し込み】〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口 1000-1 ピースハウスホスピス教育研究所

TEL 0465-81-8904 FAX 0465-81-5221

#### ◇前川喜平さん講演会「子どもの学ぶ権利とは」◇

【日時】2018年9月8日(土) 10:00 - 12:00 【場所】葛飾区 - 亀有地区センター

<https://www.facebook.com/events/856199551239187/>

#### ◇アーサー・ビナード講演会「何がおきてもおかしくない！」◇

平昌オリンピックが契機となって韓国と北朝鮮の会談が実現し、米国と北朝鮮の会談も行われました。この流れの中で日本は蚊帳の外に置かれているように感じますし、国際的な信頼を失っているようにも思います。なにせ、森友・加計問題でとっくに退陣してはいけないはずの安倍政権は、憲法を改悪する執念だけで居座り続けています。

日大アメフト部の悪質タックル問題での大学側の対応も政治が行っていることとほとんど同じ。

日本の社会はどうかちやうんだらう。米国生まれの詩人が国際政治から蚊帳の外、隠蔽・忖度に明け暮れる日本の政治と私たちが置かれている社会を解き明かす。

【日時】2018年9月9日(日) 午後1時30分開演(午後1時開場) 【会費】2000円(18歳以下:1500円)

【会場】全労連会館 2階ホール(御茶ノ水)

【講師プロフィール】

1967年、米国ミシガン州生まれ。コルゲート大学で英米文学を学び、来日と同時に日本語での詩作を始める。2001年に第一詩集『釣り上げては』が中原中也賞を受賞。2007年には絵本『ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸』で日本絵本賞。『さがしています』で講談社出版文化賞を受賞。詩集に『ゴミの日』、絵本に『くうきのかお』『ドームがたり』翻訳絵本に『ダンデライオン』、エッセイ

集には『出世ミミズ』『空からきた魚』『日々の非常口』『亜米利加ニモ負けず』などがある。

原爆を描いた絵本『ドームがたり』（2017年3月刊）は第23回「日本絵本賞」を受賞。

【主催・お問合せ】ムジカ音楽・教育・文化研究所 【協力】カマラード・ムジカ ムジカ9条の会  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-1-3-201 電話 03-3356-5713 ファクシミリ 03-3354-0751  
URL <http://www.musica-inc.jp>

【申込方法】アーサー・ビナード講演会（2018年9月9日）を明示し、氏名、住所、電話番号、ファクス番号、参加人数（一般か、18歳以下か）を、ムジカまで、電話（03-3356-5713）またはファクス（03-3354-0751）でお知らせください。チケットと郵便振替用紙が郵送されてきますので、代金を振り込んでください。  
ホームページ <http://www.musica-inc.jp> から申し込みます。

### ◇しながわチャイルドライン～第17期受け手・サポーター養成研修～◇

10/4～12/13(毎、木曜日) 19時～21時

【共催】NPO法人しながわチャイルドライン立正大学心理学部臨床心理学科 【共催】品川区・品川区教育委員会

- |                       |        |              |
|-----------------------|--------|--------------|
| 1、開講式 チャイルドラインとは？     | 10月 4日 |              |
| 2、子どもの人権ワークショップ       | 10月11日 |              |
| 3、「聴くということ」           | 10月18日 |              |
| 4、子どもの貧困と児童虐待         | 10月25日 | 【公開講座A】杉山春氏  |
| 5、仲間を知るワーク            | 11月 1日 |              |
| 6、子どもの心とからだの成長と「性」    | 11月 8日 | 【公開講座B】岩室紳也氏 |
| 7、よみがえる子どもの輝く笑顔       | 11月15日 |              |
| 8、チャイルドラインであなたにできること  | 11月22日 |              |
| 9、ロールプレイ1～よりよく聴くについて～ | 11月29日 |              |
| 10、ロールプレイ2～電話で聴く体験～   | 12月 6日 |              |
| 11、今後の活動について 終了式      | 12月13日 |              |

【会場】立正大学11号館7階（1171・1173教室）…東京都品川区大崎4-2-16

【対象】しながわチャイルドラインの活動に興味にある18歳以上に方

公開講座A・Bはテーマに興味のある方

【定員及び費用】通し参加30名（一般6,000円 学生3000円） 公開講座、各80名（600円）

【申し込み方法】メールまたは往復ハガキに①希望講座（通し参加・公開講座A・公開講座B）②氏名 ③年齢  
④郵便番号、住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（PC～の返信の為）

【申し込み締切】2018年9月18日 公開講座は定員に達しない場合のみ当日会場受付、申込可

【申込&問合せ先】Tel&Fax 03-5462-2868 E-mail [sc117k@gmail.com](mailto:sc117k@gmail.com)

<http://www.ris.ac.jp/access/shinagawa/>

★★★編集後記★★★「ケア」と「公共」を学ぶ会として、15年以上、学習の場を積み重ねてきたベグライテン。  
私自身は「悲しみを生きる力に」をテーマに語ってきました。沖縄慰霊の日に朗読された14歳の少女、相良倫子（さがらりんこ）さんの詩「生きる」。まさに「悲しみを生きる力に」。編集後記にかえて、記事と詩を転載させていただきます。

沖縄慰霊の日 曾祖母の体験聞き「命よ響け」 平和の詩 相良倫子（さがらりんこ）さん  
追悼式では、沖縄県浦添市立港川中学3年の相良倫子（さがらりんこ）さん（14）が、自作の平和の詩  
「生きる」を朗読した。沖縄戦を生き抜いた曾祖母の体験を聞き、「平和とは、あたり前に生きること。そ  
の命を精一杯輝かせて生きること」と考えた。生まれ育ったこの美しい島から伝えたい。「鎮魂歌よ届け。  
悲しみの過去に。命よ響け。生きゆく未来に。私は今を、生きていく」

相良さんの詩は県平和祈念資料館が募った「平和の詩」971点の中から選ばれた。

うるま市に住む94歳の曾祖母は戦前から理容店で働き、地上戦を体験。友人が目の前で被弾して命を落と  
したことや家族と離ればなれになった話を聞き、相良さんは「戦争の残酷さを感じた。曾祖母の存在から平  
和や戦争について考える機会が増えた」と振り返る。

5月に曾祖母が入院したことで、「生きる」を詩のテーマに決めた。「優しく響く三線は、爆撃の轟に消え  
た」「青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった」。作品では「戦争の残酷さがより伝わる」と美しい島  
の現在の情景と73年前の戦場を対比的に描いた。

「戦争は人を鬼に変えてしまうから絶対してはいけない」と教えてくれた曾祖母。「この詩が一人でも多く  
の人に平和や戦争について考えるきっかけになってほしい」と願う。「一日一日を大切に。平和を想って。  
平和を祈って。なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。つまり、未来は、今なんだ」

毎日新聞 2018年6月23日 より転載

◇◇◇ 『平和の詩 生きる』 沖縄県浦添市立港川中学校3年相良倫子（さがらりんこ）◇◇◇

私は、生きている。マンツルの熱を伝える大地を踏みしめ、心地よい湿気を孕んだ風を全身に受け、  
草の匂いを鼻孔に感じ、遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。私の生きるこの島は、何と美しい島だろう。

青く輝く海、岩に打ち寄せしぶきを上げて光る波、山羊の嘶き、小川のせせらぎ、畑に続く小道、  
萌え出づる山の緑、優しい三線の響き、照りつける太陽の光。

私はなんと美しい島に、生まれ育ったのだろう。

ありったけの私の感覚器で、感受性で、島を感じる。心がじわりと熱くなる。

私はこの瞬間を、生きている。

この瞬間の素晴らしさがこの瞬間の愛おしさが今と言う安らぎとなり

私の中に広がりゆく。たまらなく込み上げるこの気持ちをどう表現しよう。

大切な今よ、かけがえのない今よ、私の生きる、この今よ。

七十三年前、私の愛する島が、死の島と化したあの日。小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。

優しく響く三線は、爆撃の轟に消えた。青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった。

草の匂いは死臭で濁り、光り輝いていた海の水面は、戦艦で埋め尽くされた。

火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、燃えつくされた民家、火薬の匂い。

着弾に揺れる大地。血に染まった海。魑魅魍魎の如く、姿を変えた人々。

阿鼻叫喚の壮絶な戦の記憶。みんな、生きていたのだ。私と何も変わらない、

懸命に生きる命だったのだ。彼らの人生を、それぞれの未来を。

疑うことなく、思い描いていたんだ。家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。

仕事があった。生きがいがあった。

日々の小さな幸せを喜んだ。手を取り合って生きてきた、私と同じ、人間だった。

それなのに。壊されて、奪われた。生きた時代が違う。ただ、それだけで。

無事の命を。あたり前に生きていた、あの日々を。摩文仁の丘。眼下に広がる穏やかな海。

悲しくて、忘れることのできない、この島の全て。私は手を強く握り、誓う。

奪われた命に想いを馳せて、心から、誓う。

私が生きている限り、こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。

もう二度と過去を未来にしないこと。

全ての人間が、国境を越え、人種を越え、宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和である世界を目指すこと。

生きる事、命を大切にできることを、誰からも侵されない世界を創ること。

平和を創造する努力を、厭わないことを。

あなたも、感じるだろう。この島の美しさを。あなたも、知っているだろう。この島の悲しみを。

そして、あなたも、私と同じこの瞬間（とき）と一緒に生きているのだ。今と一緒に、生きているのだ。

だから、きっとわかるはずなんだ。戦争の無意味さを。本当の平和を。頭じゃなくて、その心で。

戦力という愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当は無いことを。

平和とは、あたり前に生きること。その命を精一杯輝かせて生きることだということ。

私は、今を生きている。みんなと一緒に。そして、これからも生きていく。

一日一日を大切に。平和を想って。平和を祈って。なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。

つまり、未来は、今なんだ。大好きな、私の島。誇り高き、みんなの島。

そして、この島に生きる、すべての命。私と共に今を生きる、私の友。私の家族。

これからも、共に生きてゆこう。この青に囲まれた美しい故郷から。

真の平和を発進しよう。一人一人が立ち上がって、みんなで未来を歩んでいこう。

摩文仁の丘の風に吹かれ、私の命が鳴っている。過去と現在、未来の共鳴。鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。

命よ響け。生きゆく未来に。私は今を、生きていく。

★映像はこちらで見ることができます。 <https://mainichi.jp/articles/20180623/k00/00e/040/310000c>

『平和の詩 生きる』沖縄県浦添市立港川中学校3年 相良倫子（さがらりんこ）さんの朗読

★★★★

会報に関する連絡先：メールでは入江まで ANA71805@nifty.com

電話の場合：関根まで 090-9146-6667

今回もまた、私の原稿出しが遅れたせいで、発行日が遅れてしまい、申し訳けありませんでした。（関根）